

記入上の注意

1. 該当する文字については、その項目（頭に数字があるときは、その数字のみとする）を○で囲むこと。
2. ※印欄は、記入しないこと。
3. この申請書の公費負担の承認開始日は、保健所が申請を受理した日（郵送の場合消印日）となりますので、ご注意ください。

結核菌検査				診断時の核酸増幅同定検査 検査法(PCR法・ 法)		培養後の抗酸菌同定検査 検査法(核酸同定・ 法)		薬剤感受性検査成績			
検体採取日	検体の種類	塗 抹	培 養	年 月 日 採取		年 月 日 採取		採取日	年 月 日		
月 日	喀痰 その他 ()	(直接・集菌)	(固形・液体)	検査結果	結核菌 (M. tuberculosis) 陽性 ・ 陰性	結核菌 (M. tuberculosis) 陽性 ・ 陰性	検査結果	薬剤名	濃度 (μ g/ml)	感 受 性	
月 日	喀痰 その他 ()	(直接・集菌)	(固形・液体)					RFP RBT		感	耐
									感	耐	
月 日	喀痰 その他 ()	(直接・集菌)	(固形・液体)					PZA	ピラジナミターゼ 試験・液体培地	感	耐
月 日	喀痰 その他 ()	(直接・集菌)	(固形・液体)		SM EB KM			感	耐		
						感		耐			
月 日	喀痰 その他 ()	(直接・集菌)	(固形・液体)		TH CS			感	耐		
						感		耐			
月 日	喀痰 その他 ()	(直接・集菌)	(固形・液体)	検査中	検査中	PAS LVFX DLM BDQ		感	耐		
							感	耐			
注) 初回申請時は、治療開始時の3連続検痰の結果を記入すること。				検査未実施		検査未実施				感	耐

今後の 医療方針	(初回治療例では2クール(1年)、再治療例では3クール(1年半)を超えて継続する場合は、その理由及びその他の意見を記入すること。)					
	1. 今回で治療を終了する 2. 継続が必要である 3. 感染症の診査に関する協議会の意見()について) を聞きたい 4. その他					
年	月	日				※ 病 型
医療機関の所在地						
医療機関の名称			TEL			
医 師 の 氏 名						

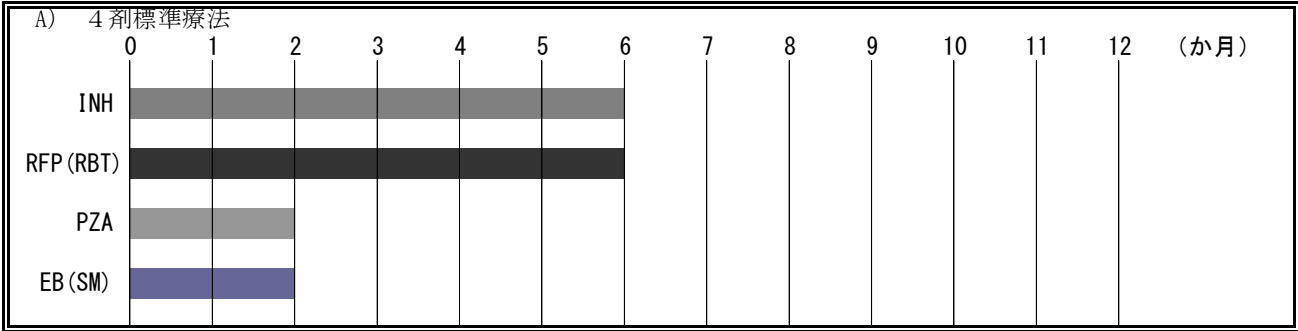
受理年月日	年 月 日	郵送 ・ 持参	37条の2	判 定	承認 ・ 不承認
受理番号	No.			個人番号等確認	本人 ☐ 保護者 ☐
登録票番号	No.			受給者番号	
		通知書番号		No.	

法第37条の2に基づく公費負担の承認開始日は、保健所が申請を受理した日(郵送の場合は消印日)となりますので、ご注意ください。

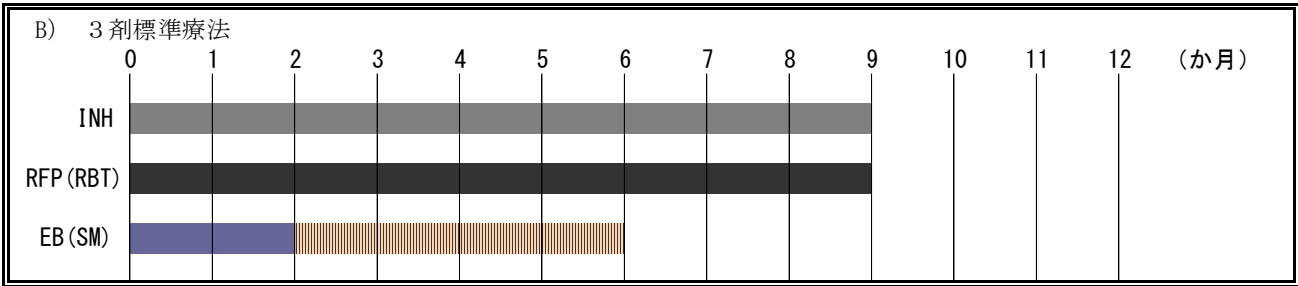
結核医療の基準 (R7年4月改正)

I 肺結核の化学療法

1 初回治療 (薬剤耐性が疑われない場合)



- A) PZA使用不可の場合を除き、原則として、全症例について4剤治療の化学療法を行う。
- ・ INH、RFP(又はRBT)、PZA、EB (又はSM) 4剤併用療法を2か月行い、その後INH及びRFP(又はRBT)を4剤併用療法開始時から6か月 (180日) を経過するまで行う。



- B) PZA使用不可の症例に限っては、3剤治療の化学療法を行う。
- ・ INH、RFP(又はRBT)、EB (又はSM) 3剤併用療法を2か月ないし6か月行い、その後INH、RFP(又はRBT)を3剤併用療法開始時から9か月 (270日) を経過するまで行う。

◎A)、B)の留意点

- (1) 塗抹・培養とも陰性で薬剤感受性が不明の場合、薬剤耐性の可能性も考慮してEBをINH、RFPとともに最後まで使用する。
- (2) 次の場合は、患者の病状及び経過を考慮して3か月間延長できる。
- ア 症状が著しく重い場合
 - イ 治療開始から2か月を経ても結核菌培養検査の成績が陰性化しない場合
 - ウ 糖尿病・じん肺・HIV感染等結核の経過に影響を及ぼす疾患を合併する場合
 - エ 副腎皮質ホルモン剤や免疫抑制剤等を長期にわたり使用している場合
 - オ 再治療の場合

2 INH、RFPが使用不可の場合

	RFPが使用できて INHが使用できない場合	INHが使用できて RFPが使用できない場合	INHとRFPの両方が 使用できない場合
PZAが使用 できる場合	①培養(－)から6か月 ②治療開始から9か月 ※①②の長い方	培養(－)から18か月	培養(－)から18か月 ※感受性のある薬剤が3剤 以上使用可能な場合
PZAが使用 できない場合	①培養(－)から9か月 ②治療開始から12か月 ※①②の長い方	培養(－)から 18か月～24か月	

抗結核薬の種類	
INH	イソニアジド*
RFP	リファンピシン
RBT	リファブチン
PZA	ピラジナミド*
SM	ストレプトマイシン
EB	エタンブトール
KM	カナマイシン
TH	エチオナミド*
PAS	パラアミノサリチル酸塩
LVFX	レボフロキサシン
DLM	デラマニド*
BDQ	ベダクエリン*
CS	サイクロセリン

II 肺外結核の化学療法

肺結核の治療に準じて化学療法を行うが、結核性膿胸、粟粒結核もしくは骨関節結核等の場合又は結核性髄膜炎等中枢神経症状がある場合には、治療期間の延長を個別に検討する。

III 潜在性結核感染症 (LTBI) の化学療法 *原則として次の(1)又は(2)のとおりとする。

- (1) INHの単独療法を6か月間 (180日)、必要に応じてさらに3か月行う。
- (2) INH及びRFPの2剤併用療法を3か月又は4か月間行う。
- ただし、INH使用不可の場合、RFPの単独療法を4か月行う。